

「未来にはばたけ」

大本山總持寺布教教化部参禅室長 花和浩明

大本山總持寺では子どもたちの夏休みに合わせて、毎年「子ども禅学林」を実施しています。小学校3年生から6年生の子供たちが、一泊で様々な修行に臨みます。

子どもたちは、とても活発な子が多く、静かにしてもらうのにはとても苦労します。面倒を見ている雲水さんたちは、最初はかなり手を焼きながらも、徐々に子供たちと打ち解けていきます。子どもたちにとって、本物の修行僧とともに禅の生活をするとは、とても尊い経験となるに違いありません。

そんな子供たちを見ていて、私はあることを思い出しました。

私が30代の頃、強く願っていたことが叶わず、失望して心苦しい日々を送っていました。

そんな時、わたしの小学校時代の音楽の先生が家に訪ねてきました。先生は大きな病を経験して、その平癒の報告に、かつて親交のあった私の両親のもとを訪れたのでした。私にとっても先生とは20数年ぶりの再会でした。

先生は私たちとの会話の中で、私がすっかり忘れてしまっていた、小学校5年生の時のエピソードを話されました。当時、先生のご提案で、クラスの応援歌を作ることになりました。作詞作曲は先生が担当されましたが、曲のタイトルは私が付けることになりました。私は「未来にはばたけ」というタイトルをつけたのでした。

20年以上たって、改めてそのタイトルを聞いた途端、私の心はとても晴れやかになりました。私の子ども時代の自由で前向きな姿が、今の落ち込んだ心を励まし、勇気づけてくれたように思えたのです。「未来にはばたけ」というタイトルは、時を超えて未来の自分へのメッセージとなったのでした。

私は、参禅会に来る子どもたちを見ていて、いつも思うことがあります。子どもたちは、大人に比べて順応性や理解力は確かに劣ります。でも感受性については、はるかに敏感だと思います。

感受性の強い子ども時代に、いろいろな経験をしておくことは、大人になって人生の壁にぶつかったときに、それを乗り越える力になってくれるのではないのでしょうか。